

牛を愛す!

～有名ブリーダーファームでの酪農留学～

私が去年の夏休みに酪農実習でお世話になった、乳牛を飼育している群馬県の(有)萩原牧場の社長である萩原一禎さんは、アメリカ留学を経験されています。アメリカの酪農とはどういうものなのか、また、酪農留学に関して興味があり、留学について話を聞きました。

萩原一禎さん



平成十八年にアメリカで一年半の酪農実習を経験。今は群馬県の(有)萩原牧場で社長を務め、共進会(注:牛の美人コンテスト)ではチャンピオンをはじめとするさまざまな賞を獲得する牛を育てている。



—留学していたのはどこですか？

アメリカ ウィスコンシン州に一年半です。夫婦二人で経営している酪農場で、70 頭ほどの少ない頭数を繋ぎ方式で飼育し、共進会(牛の美人コンテスト)に強い牧場です。そこに住み込みで働きながら生活していました。

—牛が少ないですね。アメリカって沢山の牛を機械的に生産しているイメージでしたが…

カリフォルニアとかだったら何千頭で飼育しているところがあるけど、僕が行ったのはアメリカの中西部だったからね。

—留学の目的は？

技術習得のためです。酪農はアメリカ、カナダが進んでおり、独自のスタイルがあります。最先端の技術を学びに行きました。実は最初、酪農は家の手伝いとしてあまりまじめにやっていたいなかったので。そこで知り合いのコンサルタントをしている先生からいい刺激になるのではと薦められて、まずは北海道に半年、経験を積むために酪農実習をしました。それからその北海道に酪農家さんの紹介で上記の牧場とコンタクトして、アメリカ留学に進みました。



—留学って大変そうなイメージがありますが…

何とかなるだろうと思っていました。それに、楽しそうだと思って。心配はあまりしていなかったです。それに、**留学は気軽に出来るポピュラー**なものです。ビザを取ったり、旅行会社を通じて飛行機のチケットを取ったりしました。



ーコミュニケーション方法は？

最初は全く英語がしゃべれなかったです。単語だけだったり、ジェスチャーを多めにしたりしてコミュニケーションをしていました。半年もすれば仕事リズムも良くなってきて、言葉もわかるようになってきましたよ。

ーやはりコミュニケーションって難しいですね…

なんとかなるよ！僕は最初の半年は全く休みがなくて…最初に「休みたい時は言ってね」って言われたけど、休みたくても言えなくて…でもだんだん慣れてきたら、疲れたら自分から「休ませてほしい」って言えるようになりました。

ー留学中に実感した、日本との違いは？

畑にかける時間が多いこと。その分いいエサが出来る。天気の条件で左右されるけれど、日本より畑の時間が長いです。他にも、アメリカでは酪農業は**人気の職種**。例えば、有名人が引退した後に牧場を持つというように牧場を持つことがステータスです。イメージがいい。それに比べ日本は、未だに 3K って言われていたり、求人がなかなか集まらなかったりとイメージが悪い。そこが日本より進んでいると思います。

ーアメリカの獣医師はどんな方でしたか？

フレンドリー。**排卵や繁殖の専門**の先生がいました。分業していて、その先生の得意な分野で治療をしていました。

ー日本の獣医さんとの違いは？

日本でも分業している獣医師の方々があり、アメリカのスタイルが日本でも取り入れられています。技術では日本のほうが高いと感じました。

ー技術では日本のほうが高いとは以外ですね…！

アメリカとの違いは日本で認可されていない薬（特にホルモン剤）がアメリカでは使えること。また、その値段も日本の**10分の1**でつかえます。日本は輸入している分、値段は高くなる。



ーでは日本でも薬の開発が進めばもっと良くなると…

いや、ホルモン剤とかは使わないほうがいい。毎日牛乳を飲む子どもに異常な成長が見られるといった問題視もあります。

一なるほど。では、日本の獣医師に求めるものは？

獣医師に求めるものは、腕を上げることはもちろん、病気にかからないように、**予防**に対する指導です。病気を予防できれば治療する必要なんてないのだからね。

一留学後に日本との違いに関して感じたのは？

規模が違いすぎる。でも「**基本的**なことをしっかりやっていこう」と思いました。例えば牛に草をいっぱい上げたり、丁寧に搾乳したり、牛を大切にすることです。



一逆に日本のほうがいいところってありますか？

うーん…。でも日本のほうがつまらないです。共進会(牛の美人コンテスト)でも、アメリカは勝った牛がスポットライトを浴びて、賑わって楽しいし、共進会を有名なアイスホッケーのリンクの本拠地で開催したり、大型バスで小学校の子どもたちが見に来たり、まるで芸のよう。それに比べ日本の共進会は業者関係だけで盛り上がりません。日本でも、例えば幕張メッセとかで、車のショーみたいに開催できたらもっと関心が高まるし楽しくなるよ。



R&W ショー、お客さんもいっぱい…！

一今後、酪農留学・海外留学を考えている学生に対してひとこと。

特にはないですけどね…(笑い)。行ける人は絶対に行ったほうがいい。若いうちでしか出来ないことだから！勉強にならなくても**経験**になる。日本では絶対に味わえないいい経験になるよ。

一貴重なお話、本当にありがとうございました！アメリカも日本も、酪農の仕事自体に変わりはないことに驚きました。「基本をしっかりやっていく」という言葉が印象的でした。また、日本も今後、アメリカのような酪農のイメージが根付けばいいと強く感じました。

編集 北里大学 2年 小出ゆり